



# 日建設計コンストラクション・マネジメント



## 榎本 拓幸氏

日建設計コンストラクション・マネジメント  
執行役員

榎本 拓幸(えのもと・ひろゆき)氏：1999年多摩美術大学美術学部建築科卒、2001年芝浦工業大学大学院工学研究科修士課程建設工学専攻修了。06年日建設計入社。10年日建設計コンストラクション・マネジメント転籍、25年より現職

写真＝吉澤 咲子

## 「四方よし」で社会課題解決に挑む

建築プロジェクトの目標達成を支援するコンストラクション・マネジメントで建築・都市の持続可能性に貢献。サステナビリティを核に据えた理念体系を整理し、社会課題解決と企業価値創造の両立に挑戦する。

### ——新たに整理した企業理念体系とビジョンについて教えてください。

榎本 社内で暗黙的に共有されていた理念を改めて言語化し、社員全員が理解できる形に整理しました。パーパス(存在意義)は「その想いに、こたえる」としました。ここでいう「想い」はクライアントにとどまらず、社員、社会、そして地球環境を含む広いステークホルダー(利害関係者)の思いを指します。

近江商人の経営哲学である「三方よし」に「地球」を加えた「四方よし」という考え方を社内教育にも取り入れています。その延長線上に今回の理念体系があります。

「VISION2028」では、社員一人ひとりの能力を高め、多様な人材がそれぞれのフィールドでトップランナーになることを目指します。

会社が業務内容を一方的に決めるのではなく、社員が自ら考え行動できる余白を残したのが特徴です。組織として社会課題にどのように取り組むか「結節」を明確に示しつつ、戦略的に社員が取り組みを広げる「発散」も容認することで、イノベーションを促す姿勢を大切にします。

——マテリアリティ(重要課題)はどのように特定しましたか。

### ■ 新企業理念をまとめた図

<b>PURPOSE</b>	私たちの存在意義！Who we are
その想いに、こたえる	
私たちは、社会と皆様の想いに共感する心を忘れず、挑戦的に自己変革し、明日を創造するために存在します	
<b>MISSION</b>	(PURPOSEを体現するための) 私たちの使命！What we do
社会課題の本質を捉え、人と建築と未来をつなぐ	
社会の変化に適応できる技術と柔軟性を持ち、多様な知の統合と公正かつ透明性の高い真摯なマネジメントで、人にも地球にも優しい都市・建築・環境を実現します	
<b>VISION2028</b>	(MISSIONを達成するために) 私たちが目指す2028年の姿！Where we go in 2028
ひとりひとりのフィールドでトップランナーになり、マネジメントの可動域を広げる	
個人が強みである専門領域を高め、新たな領域を開拓し、しなやかで柔らかな集合体となり、新たな価値を生むマネジメント会社へ多角的に成長します	

### ■ ESGの取り組みを評価されたプロジェクト事例



公立病院と民間病院が独立性を保ちつつ、同一敷地内に隣接して合築した官民連携の「米沢モデル」で、日本コンストラクション・マネジメント協会のCM選奨2025を受賞した(左)。ゆめが丘ソラトスのプロジェクトでは、建物利用者のみならず、地方沿線の付加価値向上と地域のサステナビリティ推進を支援し社内のサステナビリティ賞を受賞した(右) 出所：日建設計コンストラクション・マネジメント

榎本 2025年に社長・副社長・執行役員10人全員が2日間のワークショップをし、外部の専門家も交えて議論しました。会社全体としてコミットするために全員で腹を割った議論に重点を置きました。単に「やっている業務をSDGsに当てはめる」のではなく、社会課題から逆算して取るべきアクションを決めるバックキャスト思考を取り入れました。

まず「サステナビリティマテリアリティ1.0」を定め、順次更新して普遍的なものに育てます。

### ——理念やマテリアリティを実現するため、社内表彰制度を設けました。

榎本 24年に「サステナビリティ賞(社長賞)」を創設し、25年以降は従来の現業部門と同等のレベルで評価する「NCM Award」(NCMは社名の略称)に一本化しました。サステ

ナビリティの取り組みを、会社の根幹に位置付けるためです。

「Gビル南池袋01」(東京都豊島区)の大規模改修事業では、新築と改修それぞれのCO<sub>2</sub>排出量を長期的に算定し、ポジティブインパクト不動産投資の信頼性を高めました。顧客の環境への取り組みを客観的に可視化したことが評価され、サステナビリティ賞を受賞しました。このように具体的な成果が社内外で評価される仕組みが浸透しつつあります。

### 建築を通じて社会課題を解決

#### ——社会課題の解決に取り組んだ事例を紹介してください。

榎本 例えば、山形県米沢市の米沢市立病院と三友堂病院を同時に建て替えた事例があります。地方都市で

単独運営が厳しくなった公立と民間の病院を隣接して合築し、設備やスペースを共有することで効率化を実現しました。単なる建設支援ではなく、地域医療の存続という社会課題に建築マネジメントの立場から貢献しました。

「五反田JPビルディング」(東京都品川区)の再開発では、既存ビルの地下躯体を活用しつつ新しいビルを建設しました。都市の高齢化したビルを全て解体・新築するのではなく、リジェネラティブ建築を実現することで、環境負荷とコストを抑える新しい手法を提示しました。

台湾・ハイウインの「神戸本社・工場建設プロジェクト」では、海外企業が日本に拠点を構える際の文化的な違いを調整し、円滑にプロジェクトを推進しました。当社の強みである国際的なコンストラクション・マネジメント力を示す事例です。

相鉄アーバンクリエイツが手掛けた商業施設「ゆめが丘ソラトス」(横浜市泉区)では、郊外の大規模複合開発において地域住民の生活利便性と環境負荷低減の両立を支援しました。鉄道沿線の商業施設の新しいモデルを提示し、社会課題の解決と街づくりの両立を実現しています。

### ——社会課題解決への思いを教えてください。

榎本 私たちの使命は、建築を通じて社会課題の本質を捉え、顧客と社会、社員と地球環境の「四方よし」を実現することです。実際のプロジェクトで成果を上げ、社員一人ひとりが社会課題に挑む姿勢こそが企業価値を高める原動力になると考えています。